大賞AWARD 2018-2019

No.1を決定!!

ハサミ
Scissors

コクヨが放つ新・サクサの魅力は切れ味と握りやすさのバランス！

TEST 01 コピー用紙

過去ベスト

刃が厚くパワフルに切れる

評価 B

紙が刃先までサクッと切れるが、ハンドルの手への当たりが若干固め。ツルツルした素材がやや苦手なよう。

コクヨ
エアロフィットサクサ
実勢価格▶756円

リボンやビニールはやや苦手

新製品

ハサミが勝手にサクサク進む！

評価 A

噛み合わせ部分の動きが軽やかでスピーディに切れる。直線をサクサク切りたいときに最も重宝するはず。

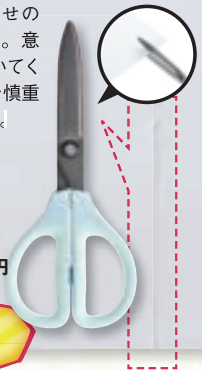
コクヨ
サクサ（チタン・グルーレス刃）
実勢価格▶972円

切れすぎるほど軽い操作感

切れ味は◎だが動きは昔ながら

評価 B

刃先までよく切れるが噛み合わせの摩擦感が重め。意思どおりに動いてくれるので曲線を慎重に切るのに向く。



コクヨ
サクサ（フッ素・グレース刃）
実勢価格▶756円

動きがやや重い

TEST 02 ガムテープ

刃に付くものの手でスルッと取れる

評価 A

のり部分が重なっていくものの刃にべったり付かず圧倒的に扱いやすい。

のりギレがよく快適

のりが重なって簡単に取れます

検証スタッフ 西口

エアロ

たまにテープがヨレることあり

評価 B

70回程度切った頃、刃がテープに持っていかれる感触はあったが合格。

動作がやや重くなる

使用後も快適に使えました

検証スタッフ 西口

サクサ チタン

日常的な回数なら快適に使える

評価 B

切り始めはよいが60回ほど切った頃、刃にベタベタ感が生じてくる。

刃には残らない

100回切ると刃が開きにくくなる

検証スタッフ 西口

サクサ フッ素

TEST 03 ダンボール

耐え切れないほど指が痛くなった

評価 C

切れ味そのものは優れているが、親指部分にハンドルの圧力が集中し、連続作業が厳しい。

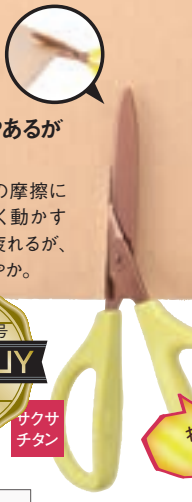
エアロ

摩擦感がややあるが軽い切れ味

評価 A

ダンボールとの摩擦によって手を大きく動かす必要があり少し疲れるが、切れ味自体は軽やか。

MONOQLO 2018年12月号 BESTBUY ハサミ ベストバイ



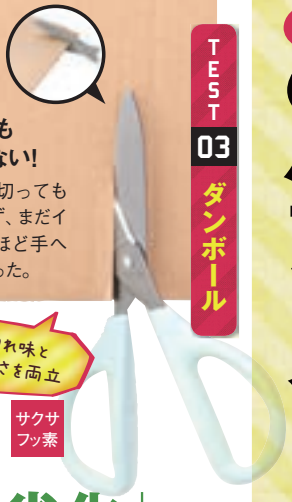
サクサ チタン

指は少し疲れる

長時間切っても指が痛くならない！

評価 A

100回連続で切っても切れ味が変わらず、まだイケる！と思えるほど手への負担が少なかった。



切れ味と優しさを両立

サクサ フッ素

テストの後に「刃の劣化」がほぼなかったのはペンカット！

文房具カフェスタッフ 丹羽咲那さん

手こずるリボンも失敗なし

丹羽さんが「切れ味の違いはリボンでわかる」と話すとおり、過酷なテスト後にリボンで切れ味をチェック。切れ味は「ペンカットプレミアム」が優れていたが、総合力で「サクサチタン・グルーレス刃」に軍配が上がった。

2018のトレンドは？

ちょっと高くていいハサミが当たり前にさらに軽い切れ味に！

MQ 文房具ベストバイ

ハサミ3大テストで

2017年ベストバイを「後継機」が超えた！

今回、本誌2017年ハサミのベストバイである「エアロフィットサクサ チタン・グルーレス刃」を超えたのは同メーカーから出た後継機「サクサ チタン・グルーレス刃」という結果に。切れ味の軽さと、手に優しいハンドルを備えた「ニュー」サクサこそ、今買うべきハサミと言える。

また、ハンドルのチープさは気になるものの、ハサミが苦手とするリボンもスパッと切れる「ペンカットプレミアム」も要注目だ。

総評

日常使いなら新「サクサ」の2本

とにかく軽く切りたいという人には「サクサ チタン・グルーレス刃」、もう少し落ち着いた切れ具合で慎重にカットしたい人には「サクサ フッ素・グルーレス刃」がおすすめ

「切れすぎない」も選択肢に入れよう

切れ味はよいが何度も動かす手間が

評価 B

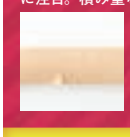
刃渡り55mmとやや短めなので、切れ味は抜群だが大きなものをカットするにはややストレスが。

レイメイ藤井
ペンカットプレミアム
実勢価格▶1404円

総評

エアロフィットサクサが優秀

昨年 MONOQLO でベストバイとなった「エアロフィットサクサ」ののりギレのよさに注目。積み重なったのりが手でスルッと取れてベタつかず扱いが楽だ



大量の梱包作業はエアロフィットサクサ

刃の細さゆえか特にストレス多し

評価 C

切り始めからすぐにテープがくっつき、切った後の切れ端もまとわりつく。

検証スタッフ
西口

ペンカット

総評

切れ味と手への優しさがポイント

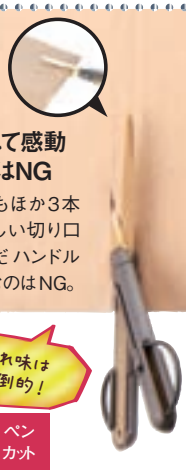
100回切るテストを行ったとき、手がほとんど痛くならなかったのが「サクサ フッ素・グルーレス刃」。「エアロフィットサクサ」よりも手に優しいハンドルのよさをしっかり感じられた

編集
建部

評価 B

スパッと切れて感動 長時間作業はNG

何度切ってもほか3本を圧倒する美しい切り口がスゴイ。ただハンドルに指が食い込むのはNG。



ペンカット

横引きタイプの「モノエアー」はストレスあり！

修正テープ
Correction tape

トンボ鉛筆 モノエアー ヨコ引きタイプ

実勢価格▶324円

使い始めから使い終わりまでずっと軽やかにテープが引ける「モノエアー」に横引きタイプが登場。先端を正確に狙った箇所に当てるのが難しく、ややストレスを感じてしまう

評価 B

狙った箇所に当てにくい

消した後にいろんな筆記具で上書きできました

尖ったペン先にも負けません！

ライター
増山

引きやすさはいまひとつだがテープの質感はお見事！

狙った箇所への引きづらさはあるが、修正した箇所に上書きする際、尖り気味のペン先やシャープペンシル、蛍光ペンにも負けない点は素晴らしい。

新製品ジャッジ！

ピンポイントの修正に特化してます

1文字だけカチッと消せる

逆さにして使う「リバースモード」ならリスクしやすい！

1文字だけ消すときに重宝

ライター
増山

プラス
ホワイパースイッチ
実勢価格▶378円

評価 B

テープの色が若干グレーっぽくテカリのある質感のため、光の加減で修正箇所が目立ってしまうが、1文字単位で消せるのは非常に便利

あと一歩でベストになり得る実力を秘める

品質の安定しているハサミなどに比べ、修正テープはハズレを引く率が高いジャンル。2018年に発売された2製品は、どちらも惜しい出来栄えだった。「モノエアー ヨコ引きタイプ」は、元祖「モノエアー」に比べ、先端がどこを狙っているのかわかりにくい点がマイナスに。

また、半角1文字ほどの小さな文字もピンポイントで消せる「ホワイパースイッチ」は、テープの色や質感が独特で、修正箇所が悪目立ちしてしまう点が気になった。基本的性能は十分なので、ここが改善されればベストバイクラスに食い込むはず。